

H23 年度第 1 回 ふくてっく運営会議 議事録

開催日時：平成 23 年 8 月 20 日 16:00～19:00

開催場所：ATC ふくてっく事務局

参加者：(理事・監事) 秋岡 和泉 稲住 小川 苅田 清水 杉浦 中北 畑 (会員) 池端

議事進行：中北 書記：清水

事務手続き：新役員の就任承諾

新役員は 2 名を除き、就任承諾書と住民票（新任のみ）を持参し秋岡監事に手渡す。

議題 1. 平成 23 年度以降の執行部体制について

1) 理事会の位置づけ (執行権限と責任)

開催頻度と決裁事項：理事会は原則年 2 回 (決算・予算計画) とする。

2) 運営会議の設定と位置づけ (活動活性化に関する、理事会との役割分担)

開催頻度：必要に応じて招集する。

協議内容と決裁事項：活動懇談会の位置づけとして、理事会承認を必要としない要件について決議して、迅速な会運営を図る。

構成メンバーの設定：理事・監事を中心に構成し、必要に応じて部会代表や会員を招集する。正会員が本会議への参加を希望する場合は、これを拒まない。

会議招集と進行主体：事務局が本会議の招集・進行および記録を担う。

3) 理事会・運営会議議事内容の会員への周知方法

理事会及び総会議事録は、署名捺印したものを PDF にし、HP(会員ページ)に掲載する。

運営会議議事録は、参加者の承認後に PDF にし、HP(会員ページ)に掲載する。

議題 2. 定例会運営の役割分担について

1) 会場予約 和泉理事の担当とする。

2) プログラム企画

・アジェンダ作成

担当は和泉理事とする。

各部代表・理事は、定例会の 1 週間前までに和泉理事に原稿送付のこと

和泉理事はこれらをアジェンダに取りまとめ、

理事長・事務局長・HP 担当・当日司会者に送付する。

定例会開催週の月曜日に ATC にて印刷をおこなう為、日程は厳守する。

印刷を ATC で行うことは本部経費の節減に繋がります。ご協力ください。

・学習会企画

担当は清水理事とする。

学習会企画は予めテーマ設定を行い、これに沿って適切な講師を選別する。

企画は、なるべくシリーズ化するよう努める。

予定学習会の題目、テーマの概要は 2 週間前までに講師から受け取り、

和泉理事を通じて広報および HP 担当に送り、早期の周知を図る。

レジメ及び当日資料等がある時は、1 週間前までに講師から受け取って、同様に周知する。

計画的に学習会を実施する。

・その他

定例会の構成を以下のように変更する。

13:30 司会者による開会宣言に引き続き、事務局報告（担当：中北__）

13:50 学習会（質疑応答を含め 90 分）

15:20 休憩

15:30 各部報告・意見交換等

ここにこタイムは、初期の趣旨が徹底できていないので廃止して
会員の個人活動発表の場「ひとことタイム」を新設する。

16:30 頃めど 次回の日時場所・司会を指名して、閉会

例会後に必要に応じて、役員会若しくは運営連絡会議等（最終 18:00）

懸案事項に関する討議

1. ボトムアップが機能していない。

理事長の語りかけが一方通行で参加者の発言がなく、事務局報告との差違が感じられず、会員のボトムをアップしてないし、その原型であった活動懇談会の機能も発揮していない。

ボトムアップを廃止し、会員が自由に発言できる「ひとことタイム」に集約する。

活動懇談会の機能は、理事会・運営会議の役割議論の中で検討する。

会員の意見を吸い上げる試みは例会中に行うか等を含めて、
親睦担当の責任で別途の方策を検討する。

2. 外部連携を本部直轄とする。

中北が事務局長に就くことになったことに伴い、外部連携をこむね
と事業部から分離して本部扱いとする。

中北が外部連携に動く場合は、ふくてっく事務局長としての活動と
する。他の理事等が動く場合も、本部の承認または要請に基づく活
動とする。そうでないものは、あくまでも個人的活動として、ふく
てっくの外部連携活動とは区別する。ふくてっくの外部連携活動に
係る経費（交通費その他の実費）は本部が支弁する。

外部連携の報告は、事務局報告の一貫で行う。

他団体等からの資料は、紹介者が予め内容を把握して、その概略を
説明しつつ回覧する。

3) 会場設営

事務局（和泉）の担当とし、定例会に早く来る会員に手伝いを依頼
する。

4) 司会進行

従前通り、会員の輪番によものとし、直前例会で指名する。

事務局は直ちに司会進行の指名を受けた旨を連絡し、
受諾意思を確認する。不調の場合は予め決めた順に従い対処する。

5) 記録

・議事録

理事の持ち回りを改め、事務局（中北・清水）が担当する。

・学習会記録

事務局（中北）が担当する。

ただし、過去に行っていたように全ての文書化ではなく、学習会内
容によっては要点整理や資料のデータ化に留めるなど新たなスタイル
を検討する。学習会記録は講師の了承を得て、速やかにHPに公開する。

- ・例会・学習会風景の写真記録 事務局（荻田・和泉）が担当する。
- ・その他 定例会運営の変更は9月3日の定例会より実施する。

議題3. (主議題) ふくてっくロジックモデル

何を目指して 何をどのように成し遂げて行くか
ふくてっくの最終成果について、役員の見解をまとめて会員に示すことを目的に議論する。

参加者の考えも集約したロジックモデルについて中北事務局長より説明があった。成果（目標）を成しえるために取組（手段）は何をするか、成果（目標）も理想を書かないで、現実に行える事を書く等の基本的な考え方を確認した後、テーマに沿って検討をおこなった。（別紙ロジックモデルシート参照）

次回運営会議でロジックモデルを仕上げ、10月の定例会で会員に報告する。

次回運営会議に間に合うように、部会毎にロジックモデルを作成するように代表者に連絡する。

最終成果については、判り易く曖昧な（個人差のある）解釈を生まない端的な表現・言葉が良いと意見の一致をみたが、該当する言葉が見つからず。次回運営会議までに考えておく、また、メールを利用して発信することとなった。

取組課題に上げられた「認定NPO」申請条件について秋岡監事より説明があった。申請できる最短距離はH25年だが、ふくてっくが申請するためにネックになるのは、23年24年の2年間で200人の寄付者を募る事ができるかである。その他はクリアしている。

寄付者名義の収集については、正々堂々と当たりたい。

寄付を如何に有意義な社会貢献に活かせるかが、大きな課題であるが、今回のロジックモデル議論を契機とする理念・基本方針の確認と活動活性化の推進により23・24年度中にその実態を創ることが必然であるが、それは十分可能であることを確認。

議題4. 定款・規約等の改訂について

定款はNPO発足時より変更されていない。現状の事業内容等当初と変わっているところがあり、改訂し手続きをおこなう必要がある。

ロジックモデルを活用し、目標や体制が明確になった時点で、手続き等は秋岡監事と中北事務局長が中心となっておこなう。

議題5. 今後の予定、その他

- ・ロジックモデルについて、メールにて意見交換をおこなう。
- ・9月24日（土）13:30～ 第2回運営会議 場所：ATC事務局